

地方創生

滋賀県・米原市の「強み」をいかし、自律的・継続的な地域社会を実現。若者が戻ってくる、移り住むまちへ。若者・子育て世代への支援を充実します。

防災対策

台風、竜巻、洪水等の災害から生活を守る。防災意識の構築と自主防災の取り組みを推進。

高齢者対策

高齢者の方々が生き生きと暮らせる社会へ（健康寿命の延伸）。

プロフィール

昭和62年 6月14日
米原市天満 出身
特技：少林寺拳法
（全国大会出場）
趣味：登山、スキー
大原小学校、大東中学校、
長浜北高校、信州大学工
学部、一橋大学国際・公共
政策大学院
家族構成：故父（元JR職員）、
母（米原市樋口出身）、長男、
次男（ヤンマー勤務）

文部科学省に入省後、地方創生政策、エネルギー政策等を担当。全国各地の大学・研究機関等を訪問し、地方に眠っている技術の掘り起こし・地元企業とのマッチング等を推進し、地方活性化に貢献。また、人事院の国内留学制度の選抜を受け一橋大学大学院にて、行政法、地方行政論等を体系的に学ぶ。

元文部科学省職員

文部科学省で地方創生政策を担当、全国各地を回ってきました。その中で、地方の衰退を肌で感じ、強い危機感を持ちました。地元滋賀県・米原市においても、層加速的に進む衰退を止める、和らげるため今やらなければならぬことがあると感じていました。

時を同じくして、闘病中の父の見舞いのため地元へ帰省し、その度に、これからの滋賀・米原に対して、自分ができることは何かとずっと探し続けていました。私自身もリターン組であるため、都市部から帰ってきてでも地元で充実した生活を送れることを自ら示したいと思えます。

衰弱した故郷の未来を変える

ていました。父の死を通して病气や死を身近に感じ、限られた人生ならば、自分の故郷・地元に対して出来ることをしたいという想いがだんだんと強くなり、地元の課題を解決し、滋賀県・米原市の未来をつくらうと決意しました。

市一県一国の橋渡しを進め、
滋賀県・米原市の
さらなる発展を図ります。

鈴木のりお

31歳

小ざぼり歩
大ざぼりカラ

衆議院議員
財務副大臣 うへの賢一郎
文部科学大臣 柴山昌彦
公明党滋賀県本部推薦



自民党
鈴木のりお

継続をチカラに、
夢をカタチに。

皆さんの願いが私のしごと

住み続けたい滋賀・米原をめざします

① 災害に強い安全な滋賀・米原

- 天野川や姉川などの河川整備、霊仙山をはじめとする砂防・治山事業の加速化
- あらゆる災害への防災・減災対策、地域防災力の向上
- 原発ゼロへ、新しいエネルギー社会の実現



② すべての人が安心して暮らせる滋賀・米原

- 保育人材の確保や待遇改善、放課後児童クラブへの支援拡充など子育て環境の充実
- 生きる力・学ぶ力と基礎学力の向上
- 医療・介護の人材確保や待遇改善など医療・福祉の充実
- 「すべての人に居場所と出番がある」真の共生社会の実現
- 少子高齢・人口減少にも耐え得る持続可能な「地域の支え合い」のしくみづくりの推進



③ 活気あふれる住みやすい滋賀・米原

- 米原駅東口県有地の利活用、坂田・醒ヶ井・近江長岡・柏原各駅の利便性の向上
- 長岡バイパスの早期完成、伊吹スマートインター、道路の安全化・強靱化および必要な交通網の整備
- 雇用の創出と起業や事業承継を支援し、若者の定住移住の促進
- 農地や森林の保全と担い手支援、獣害対策
- びわ湖や伊吹山をはじめ、滋賀の歴史文化・自然を活かした観光誘客と環境保全
- 「ピワイチ」などサイクリングによる地域の活性化
- 誰もがスポーツを楽しむことができ、健康でいきいきと暮らせるまちづくり



チームしが公認／国民民主党推薦
立憲民主党推薦／社民党推薦／連合滋賀推薦

すみだ
角田こうや

角田こうやの主な活動実績

- 伊吹高校へのエレベーターの設置
- 長岡バイパスの整備促進
- 国スポ(国体)のホッケー競技開催に向けた環境整備
- JR東海3駅へのICカード改札機の導入
- 竜巻災害への生活再建支援制度の県内初の適用ときゃんせの森の早期復旧
- 伊吹山の自然環境保全
- 天野川等の河川改修
- 霊仙山・丹生川の砂防・治山事業の推進

プロフィール

- ◆生年月日 1972年6月10日 米原市飯生まれ
 - ◆坂田小、双葉中、彦根東高卒業
慶應義塾大学法学部法律学科卒業
国会議員秘書などを経て、滋賀県議会議員(1期)
 - ◆家族構成 妻、長女(0歳9か月)
- ホームページ <https://sumida-kouya.com> facebook 角田航也 検索

投票日 4月7日(日)

※期日前投票・不在者投票の投票期間は、

3月30日(土) から 4月6日(土) までです。
(告示日の翌日) (選挙期日の前日)